

令和6年度

《第1回総合入試》

国語

時間50分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。
記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも回収します。

郁文館中学校

一次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

第二章まで、夢についてお話ししてきましたが、いかがでしたか。六本の柱それぞれに夢を描くことができたでしょうか。その目標を達成した自分をイメージするだけで、ワクワクして元気になれるような夢を描き出せたでしょうか。もし、なかなか明確なイメージを描き出せなかったとしても、**①心配することはありません**。そのときは「やりたいことを見つける日」を計画すればいいのです。

大切なのは「自分にはこの項目で、明確に夢を描けていない」としっかりと意識することです。「自分の夢を見つきたい」と考えることで、自然にアンテナが立ちますし、必ず行動も変わってきます。皆さんがこうして見つけ出し、描き出した夢を実現するために必要なもの、これが手帳です。では、ここからは私の手帳術についてお話ししていきたいと思えます。

手帳は「夢を実現するための最高のツール」であると第一章で述べました。ですが、ごく普通に「予定を管理するためのスケジュール帳」とか、「アポイントメントややるべきことを忘れないためのメモ帳」としてだけ使うのでは、最高のツールにはなり得ません。私の手帳術は、「スケジュール帳としての手帳」、カードケースに入れた「夢カード」、「日記」という三つの要素で構成されています。これら三つが連携をとり、それぞれの役目を果たすことで、「夢を実現するための最高のツール」になるのです。

第三章では、この三つの中の「スケジュール帳としての手帳」について説明していきます。先に結論を述べてしまうと、「スケジュール帳としての手帳」には、友人との約束、会社の会議などの**A日時**が決まった予定だけを書くのではなく、「五年後にはこうなっていたい」「一年後にはこうなっていたい」、「三カ月後にはこうなっていたいなければ」、などといった希望や夢を、その達成予定日に書き込むのです。そしてその夢や希望を実現するために成すべきことを、毎月、毎週、毎日のスケジュールとして入れていきます。

(ア) まだ夢を持つことができている人、先ほど述べたように「やりたいことを見つける日」を決めて、それを手帳に書き込みます。そして現在決まっている予定を書き込んでから、それらの延長線上に何があるか、「三年後にはどうなりたいか」「五年後にはどうなっていたいか」を考え、それをスケジュール帳に書き込みます。いずれの方法を選ぶにしても、手帳に希望や夢を書き込むことによって、この「スケジュール帳」は「夢を実現するための最高のツール」としての役割を果たし始めることになるのです。

(イ) そう言われても、実際に書き込むのは意外と難しいことだと思えます。なぜなら、こうした夢や希望を書き込み、実現するためには、そのための考え方が必要だからです。まずは、この考え方について説明していきます。

夢を実現するためには、いまの自分に足りない部分を明確に認識しなければなりません。ダメな自分と真正面から向き合うのです。私は**②「父と子の勉強会」**で、常に息子たちに現状と夢のギャップを考えさせるようにしました。私は息子に「おまえはいつたいどんな小学生になりたいんだ？」と問いかけます。すると長男は「ぼくはまず、リレー選手になりたい。クラスで一**番勉強**ができるようになります。クラス委員にもなりたい。それから野球ではエースになりたい」と、たくさんの夢を語ります。

その答えに対して、私はさらに「その夢を実現するためには、いまのおまえにとって何が足りないの？」と質問をぶつけます。彼は必死に考えます。

「リレー選手になるには、足が速くなきゃならないけど、いまのぼくはそんなに速くは走れない」

「そうか。だったら、何をすればいいんだろう」

「もっと練習が必要だから、毎日五〇〇メートル走る」

といったように、現状把握から具体的な行動に移せるように**B導**いていったのです。

これは大人でも一緒です。(a) 「四五歳で経営者になる」という夢を描いたならば、それを実現するために足りない点を、しっかりと認識する必要があります。経営者になるためには、そのための教養、知識、技術が必要です。若い人なら経験、財産、人脈も十分ではないでしょう。だとすれば、まず現時点での自分の実力をしっかりと見つめることです。いったい現在の自分は何を持っているのか。教養はこのレベル、知識はこのレベル……といったように、自分の能力を正確に評価していきます。

この作業は、まさに**③「自分の棚卸し」**です。あるがままの自分を見つめることで、クリアすべき課題が明確になり、初めて行動指針が決まるのです。ただし、これは口で言うほど簡単ではありません。だれしも「自分は知識がない」「経験が足りない」と、認めたがらないものです。だから多くの人がこの作業を怠っています。現実から逃げているのです。

たしかに「自分の棚卸し」は辛い作業になるかもしれませんが。夢を実現した自分と現在の自分にギャップがありすぎて、最初から投げ出し、たくなるかもしれません。(b) 、ここが踏ん張りどころです。浮き彫りになる自分が、どんなに未熟でも、どんなにふがいなくても、それをしっかりと見つめるのです。

(ウ) 足りないことを明確にすることは、同時に自分に欠けているものを埋めていくストーリーを書くという作業でもあります。すばらしいストーリーを描いてください。主人公のあなたが困難な壁を必死になって乗り越えていく、感動的な物語をイメージしてください。その物語はいまから始まるのですから、最初はダメな自分でよいのです。主人公らしく、どんどん成長していく自分を思い描いてください。この「自分の棚卸し」をしない限り、夢を叶えることはできません。ダメな自分と真正面から向き合う作業は、夢の実現に向けた大切な第一歩なのです。

私はよく「夢を描くとき、何年後までの自分をイメージすればいいのでしょうか」と質問されることがあります。どうも、この点には大きな誤解があるようです。夢は何年間といったスパンで考えるものではありません。五年後、一〇年後と考えると、それだけで夢のイメージが限定されてしまうからです。

(エ) このときは「何年後に達成できるのか」とは考えずに、まずはその楽しいイメージを思い描いてください。

次にその実現のために、足りない点を洗い出します。課題が明確になったら、それらをクリアするために、毎日二〇%のギリギリの努力を続け、どれくらい期間で達成できるかを考えます。

この達成予定日は、あなたが考え得る のものでなければなりません。もし、自分が死ぬほどの努力を続けることができれば、最も近い未来でこのときまでには実現できるはずだ。そう信じられる日付です。

④夢の性質や大きさによって、達成予定日は大きく変わってくるでしょう。たとえば「日常会話レベルの英語をマスターしたい」といった夢であれば、一年後の達成でも遅すぎるかもしれません。しかし、「社長になりたい」という夢であれば、クリアすべきハードルは高く、数も多いでしょうから、達成予定日は五年後、一〇年後ということになると思います。また、なかには達成予定日はるか未来になることもあります。たとえば「八〇歳で宮之浦岳に登りたい」という私の健康面での夢が実現するのは、いまから四〇年ほど先のことになるのです。(才) とくに達成予定日はずっと先になるものに関しては、そこからC逆算して、「五年後の自分はどんなスキルを獲得しておかなければならないのか。一〇年後の自分はどこまでのレベルに達していなければならぬのか」といったように、明確なイメージを持つことが大切です。(c) 、五年後の自分、一〇年後の自分をイメージすることは、長い道のりを迷うことなく歩くためのマイルストーンというわけです。

もう一つ付け加えておくならば、もしあなたの夢が一年や二年で達成できるものばかりであれば、それは夢の規模が小さすぎるのではないでしょう。もちろん短期間で実現できる夢をたくさん持つことも大切です。しかし「緊急じゃないけど大切なこと」の多くは、ある程度の年月を必要とするものです。逆に一年や二年では、本当の意味で、ワクワクして元気になるような夢を描くのは難しいはず。少なくとも一〇年、二〇年といった単位で、人生を大きく眺めてみることをおすすめします。最初は、長期的な視点で自分の人生を眺めることに慣れていないでしょうから、難しく感じるかもしれませんが。しかし、⑤本当にワクワクして元気になるような未来の自分を思い描いていけば、自然と中長期的な視点で身についてくるはず。

そもそも私の手帳術の前提となる価値観は「人生とは人間性を高めるための旅である」というものです。人間性を高めることに終わりはありません。これは人生の目的であり、命が尽きるその瞬間まで追い求め続ける究極の夢と言うこともできるのでしょう。部下から尊敬される上司、社員から目標とされるような経営者となるために必要な教養を得ようと思ったら、五年や一〇年の勉強で足りるわけがありません。これも「一生勉強」という視点に立てば、永遠の目標だとも言えます。すばらしい家庭を築きたい、と思うとき、それは「三年後に達成できたから終わり」といった性質のものではありません。生涯現役で活躍できる体力を得たい、と思うのなら、それも死ぬまで続く目標です。

こう言うと「来月の計画を立てるのもままならないのに、一〇年、二〇年といった長期的な計画が組めるわけがない」という声が聞こえてきそうです。しかし、緊急じゃないけど大切な長期的な夢を描いてこそ、それを一〇年後、五年後、一年後、一カ月後、一週間後といったように次々とブレイクダウンすることができるのです。最終的には「夢の実現のために今日何をすべきか」がはっきりとしてくることでしょう。そのためにも、まずは⑥長期的な視点で夢を描くことが大切なのです。

(渡邊美樹 『夢に日付を！ ～夢実現の手帳術～』より)

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一 線部A～Cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 () (欄 a～cに入る語として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア しかし イ そして ウ たとえば エ つまり

問三 線部①「心配することはありません」とありますが、その理由としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イメージすることが難しいと思っても、自分の夢を見つけたいと考えれば自然にアンテナも立って行動も変わるから。
イ イメージすることが難しいと思っても、やりたいことを見つける日にちを手帳に書き込むだけで夢は実現可能だから。
ウ イメージすることができなくても、やりたいことからの延長線上に何があるか考える日を設定することが大切だから。
エ イメージすることができなくても、ワクワクして元気になれるような夢を描き出すために自然にアンテナが立つから。

問四 線部②「父と子の勉強会」とありますが、筆者が自身の子どもに対して行った内容としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 勉強会では、できていないことよりもどうすればできるようになるのか息子へ質問し続けた。
イ 勉強会では、足が早くない息子に対して明確な答えを伝えずにどうすればいいか考えさせた。
ウ 勉強会では、野球でエースになるため具体的な行動としてリレー選手になることを提案した。
エ 勉強会では、息子たちに現状と夢のギャップをいつも考えさせるような問いかけを続けた。

問五 線部③「自分の棚卸し」とありますが、同じ意味の言葉を本文から十七字で探し、書き抜いて答えなさい。

問六 本文には、〈次の一文〉が抜けています。本文にもどす時、もつともふさわしい場所を、文中の(ア)～(オ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

〈大切なことは、まず自分がワクワクできるような世界をイメージすることです。〉

問七 文中にある に入るもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最新 イ 最短 ウ 最適 エ 最高

問八 線部④「夢の性質や大きさによって、達成予定日は大きく変わってくるでしょう」とありますが、この文から読み取れる内容としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 短期間で実現できる夢は「緊急じゃないけど大切なこと」にはならないので、長期間の夢を持たなければならない。
イ 短期間で実現できる夢は規模が小さすぎることもあり、ワクワクして元気になれるような夢を描くことはできない。
ウ 長期間で実現できる夢は達成予定日をはるか未来になるので、人生を大きく眺めることができる有効な手段である。
エ 長期間で実現できる夢は本当にワクワクして元気になれる未来を描けるので、自然と中長期的な視点が身につける。

問九 線部⑤「本当にワクワクして元気になれるような未来の自分」とありますが、そのほかにどんな自分を思い描くことが必要であるか書かれている部分を本文から二十字以内で探し、書き抜いて答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。

問十 線部⑥「長期的な視点で夢を描くことが大切」について、次の問題に答えなさい。

(1) その理由となる筆者の価値観を、本文の言葉を使って四十字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。
(2) 長期的な視点で描いた夢にたどり着くために必要なものを、本文からカタカナ十字以内で探し、書き抜いて答えなさい。

問十一 次のア～カのうち、本文内容にふさわしいものには○を、間違っているものには×を選び、それぞれ答えなさい。
ア 筆者は、手帳を予定管理やポイントメント、やるべきことを忘れないための「メモ帳」として使うことに否定的である。
イ 手帳に実際に書き込むことが意外と難しいことが分かった筆者は、まずは「夢カード」から書き込むことを提案している。
ウ 夢は何年間というスパンで考えるものであり、五年、十年と年数で考えることでより夢のイメージが湧くので有効である。
エ 現状と夢のギャップを考えることで、自分自身に足りない点を洗い出すことができるので、自分自身の課題が明確となる。
オ 「日常会話レベルの英語をマスターしたい」という夢は、一年もかからない夢なので、ここでは夢と呼ぶことはできない。
カ 緊急ではないけど大切な長期的な夢を描くことで、そこから逆算をして「今日何をすべきか」を明確にすることができる。

二次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

今から百年以上前の一九一四年、七月。

ヨーロッパをはじめ、多くの国をAマキこむ戦争がはじまりました。

第一次世界大戦です。イギリス、フランス、ロシア、日本などの連合国軍と、ドイツ、オーストリアなどの同盟国軍が戦ったのです。戦争がはじまったばかりのころ、飛行機は敵のようすをさぐるためだけのものでした。戦いは、おもに大砲や銃をうったり、剣でさしたりといった、兵士どうしがぶつかりあう、きびしいものでした。

国と国との境には鉄条網がはられました。

敵軍といちばん近くで対戦する最前線では、銃でうたれないよう、「さんごう」という、かくれる場所をほり、相手とうちあいました。食べ物もすくなく電気もないので、冬になると、寒ききびしい毎日がつづきました。それは同盟国軍も、連合国軍もおなじでした。

この話は、戦争がはじまった五か月後、フランスやベルギーにせめこむドイツ軍と、むかえうつイギリス軍との最前線で、十二月二十四日の夜におこったことです。

その夜も、イギリス軍の兵士は、一日じゅうつづいたドイツ軍との銃のうちあい、つかれはて、さんごうで休んでいました。

①若い兵士がいました。

「きょうも一日、おわたね」

「ああ、つかれたな」ひげの兵士がこたえました。

「いえにかえりたいなあ」

「いつになるやら……」

「かえったら、またみんなでサッカーしたいなあ」

「うん？　なんだ？」そのとき、若い兵士は、なにか、人の声が、きこえたような気がしました。

「なにかきこえる。なんの音だろう」

若い兵士は、さんごうから顔を出しました。

それは、むごうのドイツ軍のさんごうからきこえる歌声でした。

ドイツ語なので、なんと知っているのか、わかりません。

でも、そのメロディーはわかります。

クリスマスの歌、「きよし　このよる」です。

ドイツ軍のさんごうを見ると、たきびのまわりで、ドイツ軍の兵士が歌っているようです。

「きょうは十二月二十四日、クリスマス・イブなんだね」

「そうだったな。②ドイツにもクリスマスがあるんだなあ」

「こっちも、歌おうか」

「いいのか？　そんなことして」

「かまうもんか」

若い兵士は、空にむかつて歌いはじめました。

「きーよーし　こーのよーる……」

「ほーしはー　ひーかりー……」

ひげの兵士も、まわりの兵士たちも歌いはじめ、声は、Bシダイに大きくなっていきました。

ドイツ軍のほうも、こちらが歌っているのがわかったようで、(ア)パチパチと、はくしゅの音がきこえてきました。

つぎに「もろびと　こぞりて」を、ドイツ軍が歌いはじめました。

若い兵士たちは、はくしゅをして、じぶんたちも歌いはじめました。

言葉はちがいますが、おなじメロディーなので、いっしょに歌えます。

声は大きくなり、おわると、はくしゅも大きくなっていきました。

こんどは「みつかい　うたいて」を、若い兵士が歌いはじめ、みなが歌いだすと、ドイツがわから、ドイツ語の「みつかい　うたいて」が

きこえてきました。

両方のさんごうから、くらい夜空に、いろいろなクリスマス歌がながれていきました……。

よく日、十二月二十五日、クリスマスの日の朝。

ドイツ軍のさんごうを見はっていた兵士がさげびました。「敵だ！」

若い兵士は、とびおき、銃をかまえました。

でも、③なにかいつもとちがいます。

手をふっているようです。

ドイツ軍の兵士は、ゆっくり顔を出しました。

そして銃をもたず、さんごうから出てくるではありませんか……。

「なんだ、あいつ。こっちにくるぞ」

あいての兵士は、手をふって、こちらにも出てくるようにさそっているようです。

「よし、ぼくがいくよ」若い兵士がいました。
「だいじょうぶか？ うたれるんじゃないか？」

若い兵士は銃をおくと、じぶんも両手をあげ、さんごうを出て、歩きはじめました。
きのう、「きよしこのよる」を歌っていたドイツのさんごうから、ドイツ兵が手をあげ、ゆっくりこちらに歩いてきます。
若いイギリス兵も手をあげ、ゆっくり歩いていきます。

どちらのさんごうでも、ほかの兵士たちが銃をかまえたまま、ふたりが近づいていくのを、息をとめて見まもっています。

④すこしずつすこしずつ、ふたりは近づいていきました。

あいての顔が、(イ)はつきり見えるようになりました。

あいての目の色や、はく息の白さ、つめたい風になびくかみの毛までわかるほど近づきました。

ドイツ兵が、あげていた右手をさげ、前に出しました。

若いイギリス兵も右手を出しました。

「メリー・クリスマス」ふたりは、(ウ)がつちりとあくしゅしました。

「ぼくのなまえは、ジョンだ」

「ぼくは、ハンス。よろしく」

さんごうにいたほかの兵士たちも、みな出てきました。

もちろん銃はもっています。

みな口ぐちに、「メリー・クリスマス」といって、あくしゅして、うれしい気もちをつたえあいました。

クリスマスの歌を、またいっしょに歌ったり、身ぶり手ぶりで、あいてをほめあったりしました。

おくさんの写真や、子どもの写真を見せている人もいます。

さんごうから食べものやお酒をもってきてわけあい、いっしょに食べはじめ人もいます。

鉄かぶとをこうかんする人。

Cキネンに写真をとる人。

とこやだった人は、のびたひげをそってあげたり……。

⑤たいちようどうしも、「しよがないな」と、にがわらいしながら、かんばいしています。

若い兵士は、着ていたうわぎをまるめ、ひもで(エ)ぐるぐるしばりました。そして……。

サッカーがはじまりました。

ゴールは、そのへのぼうをたてただけです。

でも、それでじゅうぶんです。

みな、子どものようにわらいながら、走り……

ボールを追い、ドリブルして、ゴールにけりました。

夕がたになりました。じぶんたちのさんごうに、かえらなければいけません。

みな、わらいながらあくしゅをして、またあうことを、やくそくして……

それぞれのさんごうへ、かえっていききました。

一九一四年の十二月二十五日、クリスマスの日に、イギリス軍とドイツ軍が戦場でサッカーをしたというほんとうにあった話です。

戦場のほかの場所でも、おなじようなことが、いくつもあつたそうです。

でも、さんねんなから、これで戦争はおわりませんでした。

クリスマスがおわると、また戦争ははじまり、鉄条網ははりなおされ、このあと四年間もつづきました。

でも、ここでクリスマスをいわたったD兵士たちは、もう、銃であいてをうつことはせず、命令されると、銃をすこし上にむけ、空にむかってうったそうです。

大きな攻撃作戦があるときは、あいてにしらせ、気をつけるよう、つたえたそうです。

いっしょにわらい、あそび、食事をし、友だちになったから、あいてにもふるさどがあり、家族や子どもがいることがわかったからです。

国を大きくするために戦争するより、たいせつなものがあることがわかったから、この人たちは、戦争をやめたのです。

◆◆◆

この話は、イギリスもドイツも、キリスト教という宗教を信仰する人が多く、おなじようにクリスマスをいわい、おなじ歌を歌っていた

から、おこったことなのでしょう。

今の世界には、いろいろな宗教があり、考えかたのちがう人がいるので、こういうことは、なかなかおこらないかもしれません。

だから、

※

でも、信じる宗教や考えかたがどんなにながっても、ふるさとの自然や、家族、子どもをたいせつに思う気もちはおなじです。

ほかの命のことを思う想像力と行動する勇気があれば、戦争をやめることはできると思います。

この星に、戦争はいりません。

(鈴木まもる 『戦争をやめた人たち : 一九一四年のクリスマス休戦』より)

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一 線部A～Cのカタカナを漢字に直して答えなさい。(ただし、楷書でいいいに書くこと)

問二 線部D「兵士たちは」は主語です。この主語に対応する述語を次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。
ア あいてを イ 命令されると ウ すこし エ 空に オ うったそうです

問三 線部(ア)～(エ)の中から擬音語を選び、記号で答えなさい。

問四 線部①「若い兵士がいました」とありますが、この時の若い兵士の気持ちとしてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 早く自分の家に帰りたいと感じる淋しさと、この戦争がまだ続くのではないかと感じる不安な気持ち。
イ 今日という一日が終わってしまう淋しさと、敵兵士も同様に感じているのではと感じる不安な気持ち。
ウ 今日という一日が終わってしまう淋しさと、敵兵士の歌声の意味が分からないと感じる不安な気持ち。
エ 早く自分の家に帰りたいと感じる淋しさと、クリスマスを中心に祝っていないと感じる不安な気持ち。

問五 線部②「ドイツにもクリスマスがあるんだなあ」とありますが、この文から読み取れる内容としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 国も宗教も違うけど、クリスマスは祝うのは世界共通であることがわかり、一体感が湧いている。
イ 国も宗教も違うけど、戦争中に歌う敵兵士がいることを今日初めて知って、好奇心が湧いている。
ウ 国は違うけど同じ宗教であり、クリスマスは自分の国だけ祝うべきであると独占欲が湧いている。
エ 国は違うけど同じ宗教であり、敵兵士も同じようにクリスマスで歌うことに親近感が湧いている。

問六 線部③「なにかいつもとちがいます」とありますが、「いつも」がどのようなものであると書かれている部分を本文から四十字で探し、はじめと終わりの五字を書き抜いて答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。

問七 線部④「すこしずつすこしずつ、ふたりは近づいていきました」とありますが、この時の「ふたり」の気持ちとしてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア ゆっくり近づくことで、お互いがお互い何を考えているか分からないという緊張。
イ ゆっくり近づくことで、すきをつけて反撃するチャンスを見つけようという待望。
ウ 少しずつ距離が近づくことで、不意をつかれ攻撃されてしまうのではという不安。
エ 少しずつ距離が近づくことで、お互いの心も少しずつ縮められているという期待。

問八 線部⑤「たいちようどうしも、「しょうがないな」と、にがわらいしながら、かんぱいしています」とありますが、この時の「たいちよう」の気持ちを「本当は」に続けて四十字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。

問九 文中にある ※ に当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア ざんねんながら、戦争は今も世界でおこっています
イ ざんねんながら、人間は今も別々に生活しています
ウ この歴史を通して、戦争は世界で否定されています
エ この歴史を通して、人間は今も議論を続けています

問十 次のア～キのうち、本文内容にふさわしいものには○を、間違っているものには×を選び、それぞれ答えなさい。
ア 今から百年以上前に始まった第一次世界大戦は、多くの国をまき込み、数年間にかけて激しい戦闘が行われた。
イ 敵軍と一番近くで対戦する最前線に「さんごう」がつくられた結果、兵士たちがサツカーをすることができた。
ウ この物語の中で、クリスマススの歌「きよし このよる」をさんごうで歌い始めたのは、イギリス軍からである。
エ 十二月二十五日、クリスマススの日の朝に、銃を持たないでさんごうから出てきたのは、イギリス軍からである。
オ 「サツカーがはじまりました」という部分から、サツカーに参加した兵士が皆「子ども」であることが分かる。
カ クリスマスを祝った兵士たちの出来事を知った現在の人々は、彼らのことを平和の象徴として語り続けている。
キ 宗教が違って、他の命を思う想像力と行動する勇気があれば、戦争をやめられると筆者は本書で述べている。